

開かれた市政を目指して。

平成25年度 市政報告会

10月11日から11月1日にかけて、阿蘇市内11地区で開催した市政報告会は、536人の市民の皆さまにご参加をいただきました。

今月号では、主なご意見、ご要望とその回答をお伝えします。(要旨)

わたしたちの阿蘇市

阿蘇市の規模は、東西約30km、南北約17km、面積は約376平方kmです。県内では5番目の広さです。

黒川の河川工事について上流からでなく、下流側からの拡幅、採掘、堤防の嵩上げなどを早急にお願したい。

【土木部長】

内牧下流(車帰まで)の河川掘削に関しては、熊本県が11月から着手、26年3月の完成を目指すとのこと。堤防の嵩上げなどについては、輪中提計画との関連があるので、今後は10月30日に第2回協議会後、地区協議会、住民説明会を経て決定されたことを黒川激特事業で実施することとである。

協議会の中では、跡ヶ瀬地区の河川工事についても検討される予定。

黒川第一発電所の関係の拡張をお願いしたい。

【総務部長】

昨年の災害以降、さまざまなお意見をいただいている。市では昨年11月に九州電力本社、国土交通省九州地方整備局、熊本県に要望活動を行い、ダム水門の大幅拡幅と併せ黒川河川の恒久的な治水対策な

どの要望活動を行った。また、区長会でも同様な要望を行っていた。その要望を受け、九州電力では、4月19日に説明会を開催。当面の対策として、発電所ダムを含め3箇所カメラを設置し、ライブ映像を公開。また、水位運用基準をこれまでの461㍉から40㍉下げた取水最低水位での運用中であり、また、河川狭窄部・突出部の樹木伐開・整地が進めら

れた。これから平成27年度にかけ、河川突出部の1万㎡の土砂取除きも計画されている。

「堰の拡張」とのご意見であるが、黒川河川管理者に対し、以前から堰の見直しを含め、昨年のような浸水被害を被ることのないような恒久的な安全対策を要望している。今後も黒川河川改修を含め、引き続き要望を行っていく。



市のホームページからもダムの放流状況を確認することができる

阿蘇市役所トップページ ⇒ 大雨対策情報 ⇒ 黒川調整池堰ライブカメラ情報(九州電力) ⇒ カメラを選択 (<http://kumamoto.pointview.jp/aso/>)



狩尾幹線道路

Question
問 狩尾幹線道路の整備は当初5か年計画で打ち出されたようだが、なかなか達成できない。
 今現在水害や大雨のため、路面が大変傷んでおり通行に危険を生じている。一日も早い改修を願う。

答【土木部長】
 狩尾幹線道路は、平成19年度から数年度をかけた道路整備を進める予定であったが、現時点では達成できていない。整備は、県道河陰阿蘇線から長寿ヶ丘公苑までの改良整備を進めており、現在、整備延長1730mのうち930mの整備が完了しているが、残りについては、九州北部豪

雨災害に伴う災害復旧工事及び災害対策を優先しているため、未着工である。路面については確認しているので、早急な復旧を進めていきたい。

Question
問 農地水の予算が減少している。増額できないか。
 また、年々高齢化が進み、市道管理もままならない集落もある。今後の市道及び農道の管理をどうするのか。

答【土木部長】
 住民からの連絡などを受け、建設課では道路の穴、陥没等の補修、また、見通しが悪い箇所の除草作業など車両等が安全に通行できるように、市道などの維持管理を実施している。

しかしながら、市全体で多くの市道を管理しており、全線にわたり徹底した管理を行うことは非常に厳しい状況。集落内外の環境整備や環境美化活動として自主的に実施される沿線の除草作業などについてもご理解いただきこれまでも同様ご協力いただきたい。
答【経済部長】
 農地・水保全管理支払交付金事業を活用し、農道や水路

などについて、地域住民の共同活動による維持管理を実施いただいている。この事業は農地面積に対する交付金であるため、増額は不可能である。本市では、農道の管理は道路利用の受益者などに維持管理をお願いしており、これまで地域で取り組まれている区役や、農地水事業などを活用し、引き続き維持管理を行っていただきたい。

しかし、地域による維持管理が困難な路線などについては、対応の検討を行いたい。

Question
問 全ての農作物で年々有害鳥獣の被害が増加している。何とか少しでも害が減るよう検討をお願いしたい。

答【経済部長】
 市では、農作物などを守るための電気柵の設置に対する補助（2分の1以内、上限3万円）や捕獲隊に依頼し有害鳥獣の捕獲活動を行っている。

また、狩猟者の高齢化により若い世代にも免許を取得してもらえよう補助を行っているのでぜひ利用いただきたい。

Question
問 山田小学校も児童が47名と減少している。少人数のメリットもあるが、苦慮する面もあるのでは、統合計画は。

答【教育長】
 平成20年4月に学校規模適正化委員会を答申をいただいております。旧阿蘇北中校区で統合する計画になっています。一の宮地区の統合が終わり次第、計画を進めていく予定である。

Question
問 昨年の災害により落橋した山田地区の橋梁について。

答【土木部長】
 山田橋と鷲の石橋は現在仮橋で不自由をおかけしている。山田橋については幅員6.5mで歩道が2mとなる。鷲の石橋については、幅員5.5mで歩道は付いていないが、幅員は以前より広がっている。

Question
問 TPPなど日本の農業は危機的状況にある。関税がなくなればコメの価格も安くなる。機械の更新もある中で不安。安倍首相は所得倍增計画



鷲の石橋の仮橋

を出しているが、阿蘇市の農政の今後の道筋をどう考えているのか。農家を取り組めるようなことを国にも要望していただきたい。

答【経済部長】
 TPPは現在国においても協議中で市としても大変心配している。国は20畝〜30畝規模の農地を集積し担い手の専業農家をつくるのが国の施策になっている。市としては、水稲だけでは厳しい状況にあるので、国の支援をいただきながら専門的な施設園芸などにも力を入れていきたい。



【副市長】

基本的にT P Pは活かしていかざるを得ないと思っ
ている。施設園芸については、かなりの投資もいる。条件整備するうえで1割が農家負担、9割が国の補助という施策が必要。実際にモデル的には9割補助でしているところもある。1割の負担だから取り組めるので、JAにもお願いしたところであるが、みんな力を合わせて要望し、阿蘇地域に必要な施策を勝ち取っていくことが重要。

問 碧水校区は屋根のない公民館分館として活動している。中央病院などを活用し、他の地域と公平に施設整備を配慮いただきたい。

【教育部長】

社会教育の場としての公民館施設は必要。旧阿蘇町ではいずれの校区も整備できておらず、早めに校区公民館を実現していきたいと考えていた。学校の耐震化や、昨年の災害などもあり、計画そのものを先延ばしの必要が生じた。他の校区からも要望があつており、今後校区の方々、区長さんとともに検討していきたい。

問 坊中南住宅建て替えについて、以前、内牧や宮地の整備後に順番で対応すると回答をいただいているが、黒川地区の活性化のためにも、早急に計画願いたい。

【土木部長】

内牧・宮地ともに3棟目に着工している。全体では、それぞれ4棟の整備を計画しており、あと1、2年かかる。その後の対応となるが、坊中

南も候補地として重要と考えている。他の地区とのバランスもあり、これから考えていかななくてはならない。

問 乙姫校区の避難所である乙姫小体育館を耐震化計画に入れてほしい。また、避難者用にフロアに組合せ式スポンジを準備できないか。

【総務部長】

乙姫小体育館は避難所として指定しているが、フロアであり耐震状況も調査されていない。乙姫地区は乙姫小体育館が避難所として最適であると思うので、他地域の避難所も含めて耐震化、フロアの問題、またベッドの配備などを総合的な施設整備を検討したい。

問 建設中の阿蘇中央病院は立派な設備や医療機器の整備、また優秀な医者が揃えられるということだが、そこで働く医療スタッフが立派な医療活動をしてもらわないと、今後の運営が難しいと思う。これからは看護師の心遣い、また高齢化社会になると、病气よりも心のケアが非常に大事だと思う。立派な病院が



建設が進む阿蘇中央病院

出来た時には、ぜひ中身の充実をお願いしたい。

【市民部長】

ご意見のとおり施設が新しくなり最新の医療機器が入っても、それを扱うのは人である。特に患者さんに接する医

師、検査技師、看護師が患者さんに不安を与えることがないように、また市民の方が安心して中央病院に来ていただくように、今後もさらにスタッフ一同接遇研修などに十分取り組んでいきたい。

